

	【提出された意見（アイデア）の概要】	【意見（アイデア）に対する県の考え方】
	※文中の記載は、将来ビジョン素案（H22. 8. 31）に対するご意見です。	※文中のページ記載は、将来ビジョン最終版（H22. 12. 20）の関連箇所です。
I 人が活きる に関すること		
1	「教育」に対しては、もう少し強い文言で、未来社会を担う子どもたちへの熱意を表現できないか。	ビジョンにおいては、「人づくり」を最も重要と考え、『人づくり』先進福井（P51～53）を最初の戦略として教育の方向性を具体的に記載しました。
2	「家庭の教育力の低下により、社会性を育む役割までが学校任せになっている（P4）」のは正にそのとおりであり、主要プロジェクトとして具体的な取組みを行って欲しい。	学校だけではなく、家庭や地域の教育力を高め、相互に協力して教育を進めていくことが重要であると考えています。今後、ご意見を踏まえ、市町と協力しながら、体験や交流を中心とした「地域教育」を進めていきます。（P51、53）
3	「〇〇教育」と示された新しい概念に基づく教育は学校教育任せにせず、社会教育を基軸とした新しい体制のもとで進めていただきたい。 学校現場は、指導要領の改訂に伴う教授内容の増加、授業時間数の増加により、素案に新たに掲げる「〇〇教育」を、学校独自に進める時間の確保が難しい状況にある。	
4	国は、新たな学級定数、教職員定数改善案を発表した。福井県はそれを上回る少人数学級を既に実施しているが、改善案により学級数増になり、学級担任以外の教員（教育相談など加配されていた教員など）が減ることが懸念される。 加配教員は学力面、生活面など大きな成果を上げてきており、これまで以上に学力、体力を向上させていくためにも、加配教員の配置について考慮していただきたい。	
5	産業教育において、技術革新や高度化する技術への対応に必要な施設・設備に対し、最優先して予算を付け、一層の整備充実を図るべきである。	職業系高校における専門教育の充実とともに、産業や職業に関する興味や関心を高めることが必要と考えています。今後、ご意見を参考に職業教育のあり方について検討していきます。（P52）
6	和紙、漆器、建具、めがねなど、地場産業や伝統工芸の「匠の技」を職業高校で学べるようなシステムづくりを行うべき。	
7	専門高校生が農水産物の販売や模擬デパート、作品展示、ロボコンなどを行う「福井県産業教育フェア」を開催できないか。	
8	専門高校と地域社会との連携交流の一環として、地域の社会人を対象にしたパソコン・溶接・旋盤などのスキルアップ講習を職業系高校で実施してはどうか。	

9	<p>大学教育の充実、県内出身の大学進学者へのサポート、海外からの人材を福井に呼び込むための施策を検討するとよい。例えば、県外大学へ進学した学生への奨学金、低金利教育ローン制度（県内に就職した場合は、返還の全額または一部免除）の創設や、県内大学に就学している海外留学生のための、交流会開催、相談窓口開設、住宅の保証制度の創設などが考えられる。</p>	<p>大学教育については、教育の一貫性の確保の観点から小中高とのネットワーク強化が必要と考えています。また、大学におけるグローバル人材の育成機能の強化が必要であり、ご意見を踏まえ、大学教育のあり方について検討していきます。(P52、P80)</p>
10	<p>県下の最高学府の「学部」がバランスを欠いている印象があり、学生が他県の大学に流出し、戻ってこない一因になっているのではないかと。運営主体が異なるので難しいとは思いますが、福井大学と福井県立大学を一つにすると、学生は進学しやすいのではないかと。さらに、法学部も欲しいところである。</p>	
11	<p>ソフトウェア業界では、中国やインドで人件費の安い優秀なシステムエンジニアを確保し、低いコストでシステムを開発するという「オフショア開発」が既に展開されている。</p> <p>しかしながら言葉の壁は厚く、システムトラブルの際の迅速な対応が出来ないなどの問題もあり、人件費の安い、国内の地方での開発、すなわち「ニアショア開発」が近年脚光を浴びている。</p> <p>「福井のシステムエンジニアは優秀だ」、「真面目で粘り強い」と大好評であり、学力・体力があり、ふるさとを愛する福井の人材を福井にしながら全国レベルで機能させ、実力を発揮させるこうしたビジネスモデルもぜひ、中期的に発展させていきたい。</p> <p>そのためには、優秀な情報処理技術者を育てる大学教育の確立が重要である。</p>	<p>進展著しい情報産業の人材育成のためにはICT（情報通信技術）にかかる「情報教育の充実」や大学におけるグローバル人材の育成機能の強化が必要であり、ご意見を踏まえ、情報教育のあり方について検討していきます。(P52)</p>
12	<p>グローバル人材の育成には、歴史、文化、言語などの「知識」の教育だけでなく、子どものころから外国の人たちを実際目で見て、暮らしを体験し、議論をするなど、苦手意識なく交流できる基盤を作ってあげることが最も重要である。</p> <p>については、県が中心となり、小・中・高生を対象にした短期留学制度を作り、中国やインドなどとの人材交流が深まるとよい。</p>	<p>ご意見のとおり、これからの時代をリードしていくためにはグローバルな視野と能力が非常に重要であると考えています。今後、実生活の中で活かせる国際感覚や語学力を養う「国際教育」を進めていきます。(P52)</p>

13	<p>スポーツは、トップ選手の活躍が大きな励み、目標になり、より振興されるものと思われる。平成30年に福井県で開催される国体でも、本県選手が活躍することがスポーツの振興、活性化につながり、早期の選手強化対策が必要である。そんな中、「拠点校方式の運動部活動の充実」に大きな効果があると思うが、学校の部活動は先生の指導力によることが大きく、小中高の一貫性・連携、指導者の充実が課題である。</p>	<p>ご意見のとおり、競技力の向上のためには、指導者の役割が重要であると考えています。今後、拠点校方式の運動部活動の実施や、スポーツ指導者の育成と派遣システムの構築など、競技力向上のための政策を検討していきます。(P53)</p>
14	<p>総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）は、生涯スポーツ、地域づくり、競技スポーツ、子どもたちの健全育成面のきっかけづくりや、国が進めている「新しい公共」の受け皿の面でも果たす役割が大きいと思う。 福井県では、総合型クラブそのものが理解されておらず、育成支援事務局を作るなど、総合型クラブ拡大のための仕組みづくりと予算付けを検討して欲しい。</p>	<p>平成30年に開催する国体を契機に、県民が身近で生涯にわたってスポーツに親しめる環境づくりが大切だと考えています。ご意見の総合型地域スポーツクラブも含め、「1県民1スポーツ」を目標に、スポーツに関わる場や機会を広げていきます。(P53)</p>
15	<p>女性の活躍応援戦略（P5）について、「男女共同参画」という言葉は敢えて使用しなかったのか。参画と参加ではその意味が大きく異なってくる。</p>	<p>県ではこれまで「男女共同参画社会」の実現に向け、様々な政策を行ってしています。また、「参画」から「活躍」へと目標をステージアップし、女性が活躍できる社会づくりに取り組んでいます。</p>
16	<p>女性の活躍応援戦略（P5）の主要プロジェクトについて、「仕事や地域で頑張る女性活躍応援社会の実現」の「自治会活動等への参加」は「自治会活動への参画」であるべきと考える。</p>	<p>一方、福井の女性は日本一の働き者といわれ、仕事、家事、地域活動と一人が何役も担っています。そこで、ビジョンでは、女性の生活にゆとりを生み出し、職場や地域社会において女性がさらに活躍できる環境をつくることを目指しています。(P54、56)</p>
17	<p>「I 人が生きる」(P4)に関連して、健常者も障がい者も生き活きと共生できる社会づくりこそ、「県民皆活（かいかつ）社会」につながるのではないと思う。その意味でも、障がいを持つ子どもたち一人一人の可能性を伸ばす特別支援教育の充実を図り、一人でも多くの子どもたちを一般就労できるようにすることが重要であると考えます。</p>	<p>福井県は障害者の就職率、雇用率は全国トップレベルの水準ですが、今後とも雇用の場の確保に努めていく必要があります。ご意見を踏まえ、就業につながるよう、引き続き障害をもった子どもたちへのきめ細かな特別支援教育を進めていきます。(P55)</p>

II つながりを活かす に関すること		
18	<p>「II つながりを活かす」(P6~7)の内容は正にそのとおりであるが、その前に考えなければならないことがある。</p> <p>かつては、長男が家を守り、親を支え老後の面倒をみ、そのために自分のやりたいことをあきらめなければならなかった。現在では誰もが自分のやりたいことを追い求め自由に活躍しているが、その結果ふるさとが荒れ、老いた両親は孤独な生活を強いられ、だから地域で、隣人でサポートしましょうでは無責任である。</p> <p>単身世帯、高齢者世帯の増加には必ず原因があり、その原因について一人ひとりがじっくり考え、今、最も希薄となってきている「自己責任」について考えること、また、その教育も必要である。</p>	<p>戦後、個人の思いや行動を尊重する個人主義の考え方が浸透し、家族や地域社会における人のつながりが次第に弱くなっています。ご意見のように、県民一人ひとりがこのような地域社会のあり方について考えていくことが重要であり、あわせて単独世帯が増える中、地域の「つながり力」を活かし、困っている個人や家族を支援する仕組みづくりも必要と考えています。(P26、59)</p>
19	<p>福井県の将来を考えた場合、今の環境を保持することを最優先に考えるべき。そのために、今後も引き続き原子力発電所に監視の目を光らせて欲しい。できれば原子力の力を借りずに県民の生活が豊かになることが理想であり、そのための福井県のエネルギー指針を考えてもよいのではないかと。</p>	<p>原子力行政については、引き続き県民の立場に立って、安全・安心と信頼を最優先に万全を期します。(P63、66) また、原子力だけではなく、低炭素化社会の実現を目指し、CO₂を排出しないクリーンエネルギーを活用したまちづくりを進めていきます。(P70、71)</p>
III 環境を創る に関すること		
20	<p>太陽光発電、風力発電等、クリーン・エネルギー推進による社会環境整備を推進して欲しい。</p>	<p>ご意見のとおり、CO₂を排出しないクリーン・エネルギーを核として街づくりを進めることが重要だと考えています。今後、低炭素化社会の実現を目指し、環境負荷の少ない街づくりや電気自動車の普及などを進めていきます。(P70~71)</p>
21	<p>「今後、『エネルギー研究開発拠点化計画』をさらに推進し、身近な生活の中で住民がメリットを実感できるよう地域づくりに活かしていく(P11)」とあるが、実にそのとおりである。</p>	
22	<p>低炭素都市実現戦略(P11)に関連して、福井の技術力を活用したナノテクによるリチウムイオン電池の開発や充電設備の充実など、他県に先駆けた電気自動車の普及を推進してはどうか。</p>	
IV 成長を産み出す に関すること		
23	<p>産業においては、県が成長分野を決め、関連企業に情報や資金のバックアップ、人材紹介などを行うとよい。</p>	<p>「環境・エネルギー」や「健康長寿」をはじめ福井の優れた地域資源を活用した新しい産業群を育成することが重要と考えています。今後ご意見を踏まえ、具体的なプロジェクトを検討していきます。(P73~75)</p>

24	<p>中小企業は、人が育つ場であり、社員とともに地域と関わりながら、お客様や地域から「あてにされる人」を育て、「あてにされる企業」であることを目的に活動している。その意味で「豊かな県づくり」に大きく貢献できると思う。</p> <p>「中小企業への影響を第一に考慮した総合的な政策を行うこと」を念頭に置いたビジョンにして欲しい。</p>	<p>県では、福井の経済と県民の生活を支えている中小企業の活性化に向け、各種施策に取り組んでいるところです。新たな「産業群」の創出や優れた産業人材の育成など、引き続き、中小企業に対する総合的な支援を行っていきます。</p> <p>(P73～75)</p>
25	<p>県として、大企業だけでなく、中小、零細企業や起業家に対し、惜しまぬ支援を行うことが必要である。</p>	
26	<p>福井県には独自の技術、先端技術を持った中小企業が多く存在する。このような企業をサポートする助成金制度、産学連携制度を、これまで以上に促進する戦略を加えて欲しい。</p>	
27	<p>県民の99.7%が働く中小企業支援として、県発注の工事および物品は県内に本社がある企業に必ず発注するべき。</p>	
28	<p>企業育成には、行政も平均的なインフラ整備や融資制度だけでなく、個別企業の内部に深く入り込んだ指導や創業支援に注力して欲しい。</p>	
29	<p>工業技術センターは、メガネ、繊維、窯業については詳しいが、その他の部門は弱く、強化する必要がある。それによって企業も活用しやすくなると思われる。</p>	
30	<p>「新しいふるさと」を育てる基本戦略（P2）に「全体としてみると人口減少率は決して大きくありません」とあるが、減少数や年齢構成など実態を考えなくてはならないのではないか。</p> <p>若者が流出していると思われるが、主な原因は就職が無いということである。ぜひ、ふるさとで生活できるような産業振興をお願いしたい。</p>	<p>福井は失業率の低さや求人倍率の高さなど雇用環境は全国トップクラスの水準にあります。今後も、若者、女性、障がい者、高齢者が安定した仕事の機会を得られるよう、企業や団体、学校、行政が一体となって雇用の場の確保に努めていきます。(P75)</p>
31	<p>専門高校卒業生の企業採用枠の確保、拡大を行って欲しい。</p>	
32	<p>格差社会が少なくなるような雇用促進を行って欲しい。</p>	
33	<p>福井県には既にある、あるいは隠れた観光資源がたくさんある。これらの活用や観光産業振興の強化による、新しい雇用づくり（P8）を戦略に盛り込むとよい。</p>	

34	<p>福井県にはおいしい食材がいっぱいある。特にカニはかなりブランド化しているので、さらなる工夫を行い、ブランド価値を高めるとよい。</p>	<p>「越前がに」、「若狭ふぐ」など「越前若狭のさかな」のブランド力をさらに高め、観光誘客や福井の知名度向上などに活かしていきます。(P77)</p>
35	<p>経済のグローバル化とそれに伴う人的交流のグローバル化は福井県の発展に欠かすことができない課題であり、既に海外、特に東アジアからの交流人口を取込むための競争が始まっている。</p> <p>そこで、日本海を挟んで東アジアに面する国内外の都市が連携し、各都市の港湾を周遊するクルーズ商談船を運営する事業「環日本海 北前船構想」を提案したい。</p> <p>物産（農産物、工業製品など）や観光のPRだけでなく人的交流も図れ、環日本海から東アジアの新たな交易の可能性が生まれるのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、今後はアジアからの誘客促進など人的交流の拡大を図ることが重要だと考えています。アジアの富裕層を主要ターゲットにした外国人向けの新たな観光ルートづくり、観光プロモーションなどを進め、東アジアからの人的交流の拡大を図っていきます。(P80)</p>
36	<p>海外との交流においては、陽子線がん治療と観光を組み合わせた医療観光により韓国、中国人の呼び込みを行うとよい。</p>	
37	<p>アジアへの積極展開戦略（P4）に関連して、福井経済の活性化には、中国東北地区等との経済交流促進のための上海・大連等との航路就航は非常に重要である。敦賀港を通関手続きの簡便化などソフト面でも体制を整え、物流の中核拠点にするべきである。</p>	<p>ご意見のとおり、福井の地理的特性を活かし、敦賀港や福井港を拠点とする環日本海物流ネットワークを充実させることが重要だと考えています。今後、中国など新たな航路開設に向け、官民共動ポートセールスなどを強化していきます。(P80)</p>
38	<p>海外との交流においては、陽子線がん治療と観光を組み合わせた医療観光により韓国、中国人の呼び込みを行うとよい。</p>	<p>アジアの富裕層を主要ターゲットにした外国人向けの観光ルートづくり、海外における観光プロモーションなどを進め、外国人誘客をさらに進めていきます。(P80)</p>

V 交流を広げる に関すること		
39	<p>県都福井市の駅前本県顔であるが、あまりの人の少なさに寂しい思いがした。福井駅周辺に人が集まるよう早期の整備をお願いしたい。</p>	<p>福井駅周辺には、福井城址、養浩館庭園、柴田神社、足羽川、足羽山など多くのスポットがあり、今後、福井市とともに「駅周辺のにぎわい創出」など福井市中心部の大きな方向づけについて議論を進めていく必要があると考えています。(P82)</p>
40	<p>中京・関西方面への道路整備、特に、冬場の積雪を考慮した道路の開発を行って欲しい。</p>	
41	<p>県内の歩道（側道）は、狭いうえに段差が多くガタガタで高齢者が歩行しにくく、通勤通学にも支障がある。サイクリングに適した歩道にして欲しい。</p>	
42	<p>「つながりのまち創造戦略」(P12)に関連してであるが、今年3月のJRのダイヤ改正によって通勤通学の列車台数が減らされ朝夕の福井敦賀間の列車が大変混み合っている。 新幹線が開通するとますます通勤の普通列車、特急が減らされ、ますます地元住民が不便になるのではないかと感じる。列車は地元住民にとって有効な交通手段になっていないと感じる。</p>	<p>高齢化社会に対応した公共交通のあり方や歩道、道路などの整備が必要であると考えています。今後、ご意見を踏まえ、雪や雨に強い歩行者優先の街づくりや地域交通の仕組みづくりなどを進めていきます。(P82)</p>
43	<p>福井県民の将来ビジョンは、それぞれの戦略やプロジェクトが、関連性を持ち、積極的に連携を図ることで、いつでも、どこでも、だれでもが同じ夢（イメージ）を描けるようなものになる。このように、横のつながりが上手に絡み合い結ばれるよう、縦のつながりとしての情報コミュニティの環境づくりにICTを活用した「人にやさしいネットワーク・ふくい」の実現が大きな力になるものと考えている。</p>	<p>今後ICTは、産業や教育の分野はもちろん、医療や介護などさまざまな分野において新たな価値やサービスを生み出す前提になると考えています。 今後、市町とともに、いつでも、どこでも、誰とでもつながる、使いやすく人にやさしい情報ネットワークの構築を進めていきます。(P82)</p>
44	<p>明治28、29年の集中豪雨により水害と土砂災害の甚大な被害を受けた今庄南部山地は、福井県の砂防事業発祥の地となり、築造した歴史的砂防施設は領域一帯に点在、いまだに防災の役割を果たしている。 住民総出で造った歴史的砂防施設は、登録有形文化財に10箇所登録され、古木集落には日本発の「アカタン砂防エコ・ミュージアム」が誕生するなど、砂防学習や住民と交流する山村生活文化を楽しむ訪問者が年々増加してきた。 そこで、この独特の砂防文化を創り上げた領域全体を「砂防パーク」とし、山村地域の活性化を図ってはどうか。砂防施設と水源の保全はもとより、利活用による県民の自然災害への啓蒙、上流域への感謝とつながりを強化することができると思われる。</p>	<p>各地域に残る歴史的遺産をのこす仕組みをつくり、さまざまな福井文化を将来へ引き継いでいくことが重要と考えています。ご意見も踏まえ、今後、文化の継承のあり方について検討していきます。(P83)</p>

45	<p>観光についてであるが、福井県にも域外から人を呼ぶ基本条件や環境はたくさんある。</p> <p>行政に望みたいのは、福井の良さを域外に周知することは勿論、成功事例となっているビジネスモデルを関係市町村から積極的に学び取り、指導やサポートを行って欲しい。</p>	<p>観光については、さまざまな福井の資産を活かした情報発信と誘客促進が必要だと考えています。ご意見を踏まえ、今後、戦国・幕末など歴史的な観光資源や周辺エリアのルート化、アジアなど国内外からの誘客について市町とともに進めていきます。(P84)</p>
46	<p>「ふくい周流」展開戦略 (P13) に関連して、北海道や秋田など海外ドラマで取り上げられたところは、外国人観光客数が飛躍的に伸びていると聞く。外国人観光客誘致のために、韓国などのドラマで福井を取り上げてもらうような取り組みを行ってはどうか。</p>	
47	<p>若者も含め歴史を好きになる人が増えてきている。江戸時代の町並木を再現するなど、県外の人がぜひ行ってみたい場所にするとよい。</p>	
48	<p>人口の移動率が全国 45 位であっても、人口減少、特に若者の都市への流出は年々増えているのではないか。人材育成や雇用の充実を図る戦略は示されているものの、それだけでは不十分に感じる。なぜ、若者が都市に流出するのかを調査し、教育環境・雇用環境のほかにもどのような環境が求められているのかを考えて対処しなければならない。</p>	<p>福井の優れた「暮らしの質」をさらに高め、若者をはじめ県民が「福井に暮らして良かった」と思えるふるさとづくりを進めていく必要があると考えています。また、福井の良さを外にアピールし、帰住・移住希望者の受入れをさらに進めていきます。(P86)</p>
49	<p>主要プロジェクトに「帰住者に選ばれる田舎づくり (P12)」とあるが、都市からの流入者はお客様ではなく、地方（とりわけ田舎）で暮らしていくには、自身がそれなりの自覚と覚悟を持たなければならない。プロジェクトを実行するにはこのことが肝心である。</p>	
ビジョン全般に関すること・その他		
50	<p>福井県は、住み良く、四季折々の自然が豊かで、それだけで存在価値は充分である。福井県としての「成長」とは何かをよく考え、違った価値観を持つ県であって欲しい。</p>	<p>福井が進むべき方向性として「福井の長所を活かした生き方や生活のスタイルをつくって次の世代に引き継いでいくこと」をビジョンの柱のひとつにしました。(P3)</p>
51	<p>福井県の将来ビジョンの戦略やプロジェクトは、「ますます元気になる福井県」のために、どんな状態になれば福井県が元気になっていると言えるのか県民のコンセンサスを得ながら進めていくことが重要と考える。</p>	<p>構想の段階から県民の皆様の意見を広くお聞きしており、県民の共通の目標となるようなビジョンをめざしています。今後、優先順位をつけながら県民とともにこのビジョンの実現に向けて具体的な施策やプロジェクトを行っていきたいと考えています。(P4)</p>
52	<p>今後、人口や税収の急激な減少が見込まれるなか、何もかもを行っていくことは難しいのではないか。もっと厳しく現状を分析したうえで、優先順位を決めて施策を講じるべき。</p>	

53	<p>ゆとり教育の見直しなど、国の方針は、何を行うのにも短絡的で、長期的な展望や導入するまでの周到な準備や信念が無い。今後、国の方針にさらに翻弄されることが増えると思うが、信念を持って行動する福井県であって欲しい。</p>	<p>県の役割のひとつは、集権的になりがちな国の施策や地方分権改革などの動きを「地方自立」の観点から常にチェックしていくことだと考えています。今後とも、県の一体的な発展と県民生活の質の向上を第一に施策を進めていきます。(P89)</p>
54	<p>この素案は、大人が読むのに苦痛を感じるほど長く、読みづらく、改善が必要である。小中学生が読んでも分かるものを作って欲しい</p>	<p>ご意見を踏まえ、グラフや図を用いるなど、全般にわたり、より分かりやすく読めるよう工夫しました。今後、県民向けにさらに分かりやすい要約版の作成も進めていきます。</p> <p>また、目指す将来像を実現するための戦略を大きく5つに整理し、それぞれ具体的なプロジェクトのイメージを記載しました。</p>
55	<p>ビジョンは策定して終わりではなく、確実に実行して行って欲しい。また、各市町の行政の方、住民の方に周知することも必要であるが、目を通しにくく思われる。図や写真などを用い、要約版を作成するなど工夫して欲しい。</p>	
56	<p>この素案を読むだけでは、具体的にどのようなことを行うのか分からない。具体例を挙げると実行性が見え、分かりやすくなるのではないか。</p>	
57	<p>ビジョンの目的は、「10年後の福井に希望を持つことのできる『新しいふるさと』を創り出すこと」と述べられている。以前は、10年一昔と言われていたが、今では5年一昔と言っても過言ではないほど状況の移り変わりが激しいと思われる。</p> <p>各戦略の短期化、その実現予定を明確にすると県民もビジョンのイメージがつかみやすいのではないか。</p>	